

# 山宮神社

## 春祭に 伴う芸能

毎年2月の第3日曜日に山宮神社(串良町細山田)で行われるもので、地域の五穀豊穡の願いが込められている。3集落の「正月踊(棒踊り)」、2本の木を絡ませて引き合う「カギヒキ」、太郎次郎の狂言回し(2人の男性が面白おかしく話を進めるもの)をしながら木製の牛を引いて田ならしを行う「田打」。最後に神事の順で執り行われ、神事でまかれた種籾を持ち帰り田んぼにまくと豊作になるといわれる。約450年続いており、昭和37年に県の無形民俗文化財に指定。



正月踊(棒踊り)



カギヒキ



田打



山宮神社春祭に伴う芸能保存会  
すえみつ こうじ  
末満 耕二 会長

それらも今では過疎化が進み、祭りの参加者探しも苦労するようになっています。現在中心に活動している高齢者が祭りを行っていくことにも限界が近づいています。やはり、後継者は大きな課題です。細山田小学校では運動会で堂園集

この灯だけは消したくない  
「正月踊(棒踊り)」、「カギヒキ」、「田打」からなる山宮神社春祭に伴う芸能は約450年前の江戸時代慶長年間から続くものです。その年の豊作を祈って行われますが、棒を打ち合っ行う棒踊りを見ると武術の意味合いも含まれていた

のではないかと考えられます。この行事は昔から地域の一大イベントでした。堂園、馬掛、生栗須の3つの集落ごとに行う棒踊りは1組6人で構成され、3組18人で行うことが多いのですが、昔はこの18人の踊り手に選ばれるのも希望者が多く大変難しいことでした。今よりも集落の人口が多かったことはもちろんですが、携帯電話などのない時代の中で、男女の出会いの場となっていたことも大きな要因だったと思います。

落の棒踊りを披露しており、子どもたちからは「他の地域の踊りも踊ってみたい」といううれしい声も聞いています。子どもたちが祭りへ参加してくれば、親や祖母などその周りの人も祭りに来てくれるでしょう。また、祭りの存続のためには集落ごとに行っていた踊りや祭りの準備も、今後は町内会や自治会等の大きな単位で考えていく必要があると思います。70年ほど前に馬掛の棒踊りが一度途絶えてしまった際、同じ踊りを踊っていた高隈の仮屋自治会に教わり復活したそうです。そして、40年前にはその逆のことが起こったと聞きます。伝統文化を記録として保存していくとともに、多くの人と助け合いながら伝承していかなければならないでしょう。



山宮神社の社殿

# 告ぐく継承者の想い

先人の心意気を守って  
いきたい

王子町鉦踊りには、鉦踊りの曲が8つと踊り手を囲むように踊る烏舞の曲が2つ、歌のある曲もいくつかあります。正式には笛の演奏から始まり、太鼓、鉦という順で演奏が始まりますが、昭和40年くらいからは笛の演奏者がいなくなってしまう、主に太鼓と鉦と手べしの3つとなりました。



王子町鉦踊り保存会  
やまの けんいち  
山園 謙一 会長

かけとなったため出前授業を行って正解だったのではないかと思っています。

今後の伝承という意味では、やはり小・中・高校生に取り組んでもらうことが大切だと考えています。出前授業として鹿屋小学校の4年生に鉦踊りを教える取り組みを9年間行っていますが、実際に小学生が踊りに参加してくれるようになるのはなかなか難しいです。また、この取り組み自体についても、鉦踊りは大人のものだ、王子町の人が踊るものだという意見を持つ人もいて、当初は内部で摩擦が生じることもありましたが、しかし、今となっては少しでも子どもたちに理解してもらえら

私が子どもの頃は鉦踊りが楽しみでした。この想いを町民の人に持ってもらい、この踊りが王子町のよりどころになればいいと思います。そのためには踊りだけではなく、練習や他の取り組みなどにも魅力がなければなりません。用水路の下流域の地域ではほとんど途絶えてしまっている踊りを現代までずっとつないでいる先人たちの心意気。それこそが私たちが最も後世に伝えていきたいものです。

## 王子町鉦踊り

用水路の開通と開田を祝って1753年に始まったもので、現在は豊作祈念と水神祭の奉納を兼ねて旧暦8月28日に和田井堰公園で行っている。主な構成は太鼓2人、手べし2人、鉦7・8人、笛1人、唄い手1人、ほら貝1人、烏舞12・13人。令和2年に県の無形民俗文化財に指定。

